

News Letter

2025年

7月

中国四国農政局
広島県拠点

収穫真っ盛り！ 東広島市安芸津町大芝島のびわ

東広島市南部に位置する安芸津町は、瀬戸内海に面しており奈良時代から安芸の国として栄えてきた港町です。

温暖少雨の穏やかな気候と三津湾に囲まれた地元特産品には、みかん・びわ等の柑橘類や全国的に有名な牡蠣、馬鈴薯（まる赤じゃがいも）などがあります。

収穫最盛期の安芸津産の「びわ」について、優良産地である大芝島の生産者古本克志さんと、JA広島果実連で柑橘類の指導担当をされている栗木富生技師からお話を伺いました。



出荷前のびわ（早生品種：なつたより）

「安芸津のびわについて」

安芸津町は、県内のびわ主産地である芸南地区（呉市安浦町・川尻町を含む）にあり、地区全体の栽培面積は約10ヘクタール、収穫量は約10～13トンが見込まれ、県内各地に出荷されています。

びわは、戦前より栽培され、40年前にはハウス栽培の団地もありましたが、現在は全て露地栽培となっています。

市場やファーマーズマーケット（産直市）に出荷している生産者は約30名で、その内大芝島には10名が生産を行っています。



晩生品種「田中」収穫中の古本さん

「今年の収穫と生産現場での苦労について」

古本さんは、「今年は、2月と3月の寒波のため、収穫は約1週間位遅くなった。玉は小さくなったが収穫量は昨年と同じくらい。作業は、傾斜地で脚立を使用する（袋かけや収穫）ため、転落する危険や、梅雨時期が収穫最盛期となる晩生「田中」はわずかな晴れ間に集中的に行う必要があるなど大変だが、気を付けて作業している」と話されていました。



袋収穫されたびわ

「今後のびわ栽培について」

栗木技師によると、県内市場ではびわ需要が高いため、出荷量を増やし県内ニーズに応えるとともに、びわ作業の閑散期に他の柑橘類を生産し生産者の所得向上に結び付けたい。

また、地元の芸南果樹研究同志会では、品質改善を目的としたびわ品評会（6月20日）を開催したり、品種を晩生「田中」から中生「なつたより」にすることにより収穫期が梅雨に重ならないように、また、成木が作業性の良い低樹高なるように推進をしています。

さらに、JA広島果実連の設立した広島県果樹農業振興対策センターの宮盛農園（主に柑橘類栽培）では、研修生を受け入れ後継者を育成しており、研修生の中には、安芸津町に移住しみかん・レモン・びわ・ばれいしょを栽培している方がいると話されました。

編集：中国四国農政局 広島県拠点

〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30

TEL (082)228-9676(内線306)

<農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>